

チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	25-17-1	市民の健康づくり推進	草津市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	目指せ!けん診受診者 2 万人～トルネード大作戦★すてきな輪の始まり～		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	bc-life 鬼に金棒		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	1	
メンバー数（公開）	9名		
代表者（公開）	角谷貴美子		
メンバー（公開）	田中和美 中原なおみ 大塚佐緒里 中野充博 中瀬明美 津田直子 廣政奈緒美 松尾晶子		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 **確認後ここに結果（○）を記入**

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、**何を**する社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい**なる、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

草津市は、平成17年に「健康くさつ21」を策定し、市民の健康づくりに対し積極的に取り組んできたが、検診における受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響により低下しており、なかでも乳がんは、女性のがん罹患数が最も多く体制の充実や啓発を強化する必要があると課題提示が出ている。その課題に対し、啓発活動やがん教育というツールを使って健康増進課様と連携し継続していくことであると考え、具体的な課題を確認し『5つの悩み』があることがわかった。この『5つの悩み』について協力・連携できることを提案し、『がん対策推進基本計画』の目標値である受診率50%（2万人）を目指していく。

【健康増進課の具体的な5つの悩み】①乳がん検診を受けない理由がわからない②市役所が発信しているがん検診の内容を目にとめてもらえていない③受診につながる啓発がわからない④がんのイメージが悪すぎるのでイメージを変えたいけれど、どうしていいかわからない⑤けん診の受診率アップをしたい。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> **<アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>**

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

【仮説】

草津市の乳がん検診実施状況によると、平成30年以降の受診率はおよそ9%～12%となっている。ターゲットとなる女性は、家事や子育て、仕事、地域のとりくみなど、とても忙しく時間的な余裕がないので、けん診をつい先送りしがちな傾向にある。また、子育て中は子どもを優先する傾向があるため、自分の健康については二の次となりやすい。社会的な環境としては、テレビなどのマスメディアの情報からネガティブなイメージを抱いている人も多く、「けん診に行つて、何か見つかったらどうしよう…」という思いから、けん診をためらう人も少なくないと思われる。そんな乳がんの受診率を上げるためには、『正しい情報と正しい知識を伝えること』が大切である。また、乳がんは唯一自分で見つけることのできるがんで、日頃から『気軽にチェックする習慣』を身につけ、けん診が受けやすい環境が必要であると思われる。また、継続的な活動のためには、状況把握・効果の確認のためのデータが必要であり、使えるデータを収集していく必要もあるといえる。そのような環境を培うことで、将来的に市民・行政・企業が連携し、より良い環境を作るためのデータベースが構築されると思われる。

【健康増進課の具体的な5つの悩み】①乳がん検診を受けない理由がわからない②市役所が発信しているがん検診の内容を目にとめてもらえていない③受診につながる啓発がわからない④がんのイメージが悪すぎるので、イメージを変えたいけれど、どうしていいかわからない⑤けん診の受診率をアップしたい

【使用するツール】

- ① 触診モデルで疑似体験！～これってシコリ？シコリってなに？セルフチェックキャラバン
- ② がん教育と社員研修で正しい知識と情報を！～こどもの頃から意識づけ&大人の意識を変えていく～
- ③ スマイルリング（社会貢献を当たり前！優しい社会を目指して～手編み乳房パッドを使った社会貢献活動）

【内容】bc-life では、乳がんに対する正しい知識と情報をお一人お一人にお伝えする活動と同時に、アンケートによ

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

るがんに関係する意識調査を2021年 4月から行なっています。アンケートは独自の内容で行っていましたが、健康増進課のお悩みを聞き、知りたい情報を得られるようにアンケートを作り直すだけでなく、けん診率アップができるよう連携体制を整え、市民の健康意識の向上・けん診の受診率がアップ・より良い社会を目指すため『3つの提案』を考えました。

【お悩み①】お悩み①：なぜ検診に行かないのかわからない

◆提案1～〇〇ついでに意識調査（お買い物ついでに、学校教育のついでに、社員研修のついでになど）

◆原因：意識アンケートが独自にされていない

◆解決策：セルフチェックキャラバンのついでに意識調査。具体的な対策(何を求めているのか)をわかりやすくする

【お悩み②③④】市役所が発信しているがん検診の内容を目にとめてもらえていない

◆提案2～行動につながる啓発（セルフチェックキャラバン&スマイルリング）〇〇ついでに手軽にチェック～

原因：①乳がんについて触れる機会が少ない②自分ごとと思えないので受診しない人もいる③忙しい、めんどくさい、なにかあったら怖い、自分はならないなどの気持ちから受診に行かない。

解決策①がんに対する社員研修を行い、社会への周知も促す。②楽しむ、お得の目線から、健康について意識する機会を作る（健幸意識のボトムアップ）③けん診に行く理由に気付く⇒解決策の循環

【お悩み④】がんのイメージが悪すぎるのでイメージを変えたいけれど、どうしていいかわからない

◆提案3～がんのイメージを変える～

原因：メディアのイメージがネガティブなイメージが多いため、怖いから検診に行かない人がいる。

解決策：正しい知識や情報につながりやすくする。

【お悩み⑤】けん診の受診率アップをしたい。

◆解決策～受診率UP 継続は力なり～

原因：がん教育の機会が少ないため、けん診に対する意識が低い

解決策：こどもの頃からがん教育の機会を増やし、正しい知識と情報を育み、正しい選択ができる環境をつくる

【効果】

①乳がん検診を受けない理由がわからない⇒具体的なアンケート

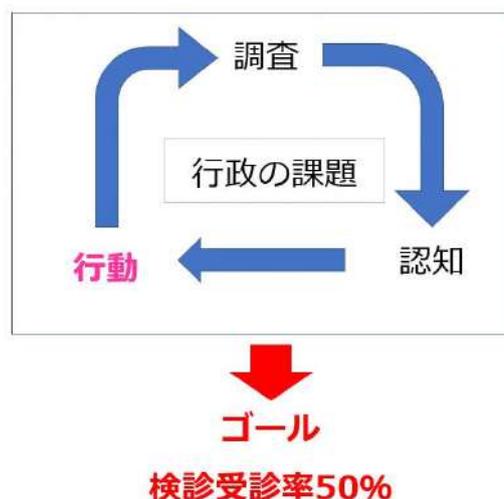
トを取っていくことにより、検診を受けない理由がわかるため対策が取りやすくなる。

②市役所が発信しているがん検診の内容を目にとめてもらえていない⇒健康と食などコラボしながら横の連携を取ることで、幅広い層に周知活動が可能になる。その結果、検診についての情報を目にする機会が増えて意識が向上する。また、QR コードなどを活用し、日常生活の中で手がかりに情報を得られるようにする。

③受診につながる啓発がわからない。⇒セルフチェックキャラバンとスマイルリングを各地区で何度も開催し続けることで、正しい知識と情報が深まり検診へのハードルが下がり行きやすくなる。

④がんのイメージが悪すぎるのでイメージを変えたい⇒ネガティブだけでなく、正しい情報につながりやすくすることで、ニュートラルな判断ができるようになる

⑤けん診の受診率アップをしたい⇒解決策①～⑤をし続けることで、子供たちのがん教育のベースが確立され、大人から子供まで正しい知識と情報が深まり、『けん診行くのが当たり前。その方が元気でいられる』という意識づけがされて、受診率がアップする。



【課題】

- ・bc-life は、地域とのつながりがまだまだ薄いため、長期的に行政と連携しながら活動範囲を広げる必要がある
- ・活動資金の確保

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

【健康増進課の具体的な5つの悩み】

※データは、乳がんの特化した情報が少なかったため、がんに対する意識調査を中心に使用している

① 「意識調査およびセルフチェックキャラバン・がん教育・社員研修が必要」と考えた根拠

受診しない理由として、時間がない、怖い、がんそのものを知らないなど、環境が整っていない、正しい知識と情報が欠如していると思われる。

更問イ がん検診を受けない理由

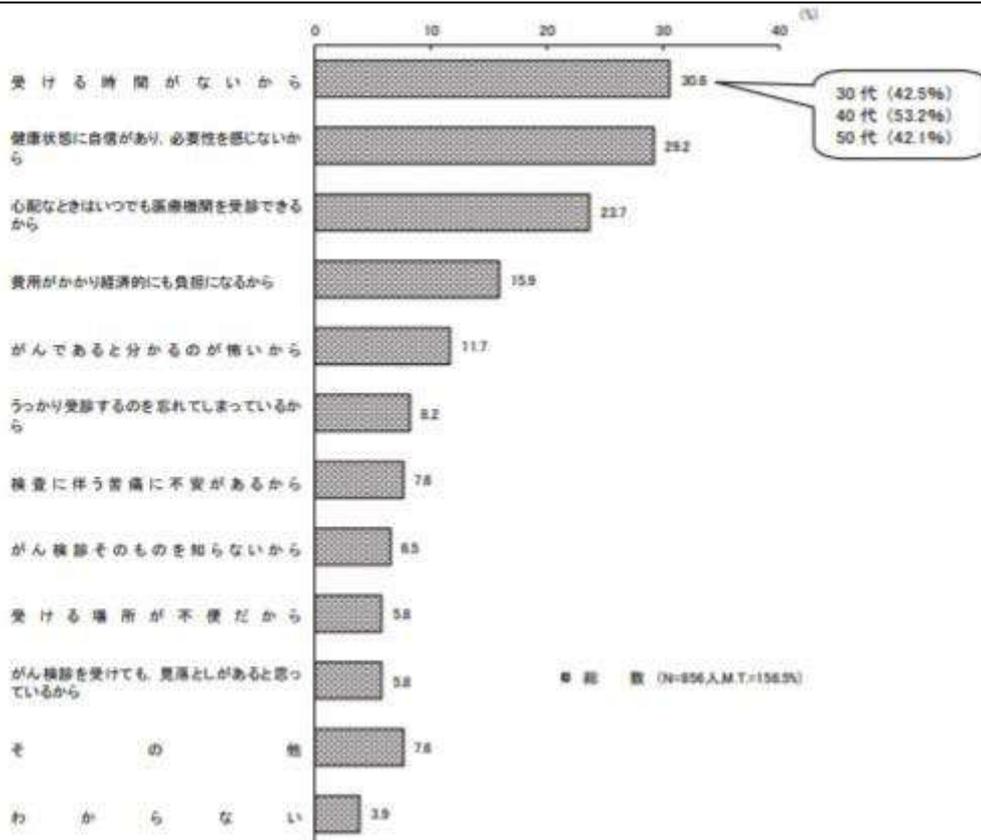
更問 （問3で「2年以上前に受診した」、「今までがん検診を受けたことはない」と答えた方（856人）に
あなたが、これまであるいは最近、がん検診を受けていない理由は何ですか。
この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

	(上位4項目) 平成28年11月
・受ける時間がないから	30.6%
・健康状態に自信があり、必要性を感じないから	29.2%
・心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	23.7%
・費用がかかり経済的にも負担になるから	15.9%

〔胸や背のレントゲン撮影やマンモグラフィ撮影などによるがん検診を「2年以上前に受診した」、「今までがん検診を受けたことはない」と答えた者に、複数回答〕

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）



出所：「がん対策に関する世論調査」の概要（平成 29 年 1 月内閣府政府広報室）

② 「継続的かつ一人ひとりに届く周知活動が必要」と考えた根拠

受診率の低さがうかがえるので継続的な周知活動が必要である。

草津市乳がん検診実施状況

許容値	対象者数 ①	受診者数 ②	(再掲)		2年連続 受診者数	受診率
			初回 受診者 (%)			
草津市	H30	37,385	2,148	1,267 (59.0)	89	10.7%
	R1	37,995	2,521	1,495 (59.3)	95	12.0%
	R2	38,606	1,361	730 (53.6)	148	9.7%

出所：草津市健康増進課からの聞き取り

草津市における、生活習慣病の発症予防と重症化予防の現状

2 生活習慣病の発症予防と重症化予防

数値目標項目		現状値(H28)	改定目標値(H35)
がん	がん検診受診率の向上（胃がん）	40歳以上	3.77%
	がん検診受診率の向上（肺がん）	40歳以上	20.98%
	がん検診受診率の向上（大腸がん）	40歳以上	20.25%
	がん検診受診率の向上（子宮頸がん）	20歳以上女性	26.29%
	がん検診受診率の向上（乳がん）	40歳以上女性	19.09%
			50%

出所：「健康くさつ21（第二次）」中間評価（平成 30年 3月草津市）

草津市における、啓発活動に関する現状

2 啓発内容

- ポスター掲示の場所
市役所・さわやか保健センター、市の関係機関(まちづくりセンター、図書館、体育館等)、大型量販店・市内スーパー、検診実施医療機関・薬局等
- はがきを送付している対象者
 - ・無料クーポン券対象者:40歳、45歳、50歳、55歳、60歳(毎年5月頃 1回)
 - ・無料クーポン券対象者再勧奨通知:上記対象の中での未受診者(毎年11月頃 1回)
 - ・個別勧奨はがき:40歳～69歳の女性(無料クーポン券対象者・昨年度受診者以外)
- その他啓発
 - ・草津市のホームページに「各種けん診のご案内」を掲載。
 - ・広報4月1日号と一緒に「さわやか健康だより(年間保存版)」を全戸配布。
 - ・無料クーポン券、草津市国保の特定健診の受診券、後期高齢者健診の受診券を送付時に「各種けん診のご案内」リーフレットを送付。
 - ・乳がんチェック自己触診法のお風呂ポスターを集団検診にて配布。
 - ・広報6月1日号にて集団けん診周知。
 - ・健康都市宣言賛同事業所へ「各種けん診のご案内」リーフレットを送付。
 - ・健康推進員の研修で周知。

出所：草津市健康増進課からの聞き取り

③ 『正しい知識と情報を伝えることが大切』と考える根拠

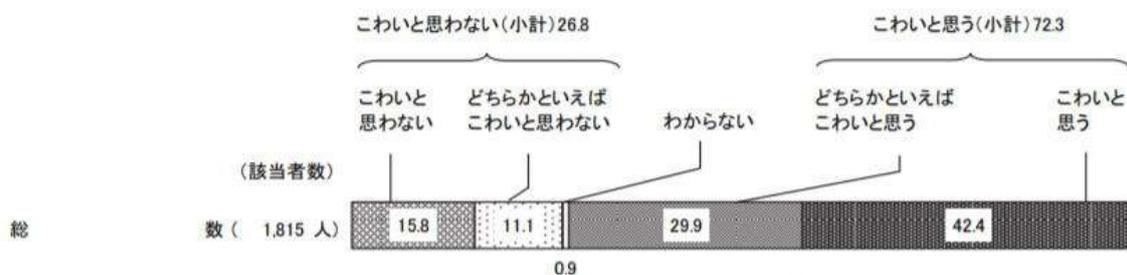
ネガティブなイメージを持っている人が多いことがうかがえるため、正しい知識と情報を伝える必要があると思われる

1 がんに対する印象・認識について

(1) がんに対する印象

問1 あなたは、がんについてどのような印象を持っていますか。
この中から1つだけお答えください。

	平成 28 年 11 月	(参考)平成 26 年 11 月
・こわいと思わない（小計）	26.8%	24.6%
・こわいと思わない	15.8%	13.6%
・どちらかといえばこわいと思わない	11.1%	11.1%
・こわいと思う（小計）	72.3%	74.4%
・どちらかといえばこわいと思う	29.9%	33.2%
・こわいと思う	42.4%	41.2%



出所：「がん対策に関する世論調査」の概要（平成 29 年 1 月内閣府政府広報室）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**

2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法

3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

①乳がん検診を受けない理由がわからない②市役所が発信しているがん検診の内容を目にとめてもらえていない③受診につながる啓発がわからない④がんのイメージが悪すぎるので、イメージを変えたいけれど、どうしていいかわからない⑤けん診の受診率をアップしたい

【Stage1】初期 下準備 市民と行政 関係の構築（けん診7600人！）

内容① 今あるものを使って連携体制を整える（市民と行政と一緒に考える。あったらいいなを見つけ出す）

《実現主体》bc-life 《必要資源》

ヒト：健康増進課

モノ：bc-life のアンケートを提供する、啓発グッズ（中京テレビ進めプロジェクト提供）など カネ： がんに関する啓発チラシやノベルティ印刷代、交通費。イベント参加費、人件費

調達方法：それぞれもっている啓発物品を使う。

《実現にいたる時間軸を含むプロセス》

市民と行政との対話。定期的な情報交換、行政に対してアイデアの提供（目標：月1回以上）

【Stage2】中期：活動の拡大（けん診 15,000 人）

内容：初期活動の継続とそれぞれの活動の拡大

① bc-life：市民活動の拡大を促す役割（直接対話で情報収集。市民の声の中継。定期的な会議の場で行政に情報提供）

② 行政の役割：市民がアイデアを出しやすい環境を作る。出てきたアイデアの開示。目安箱の設置

《実現主体》bc-life 《必要資源》

ヒト：健康増進課、市民

モノ：bc-life の備品、行政の施設、イベントに必要な備品・施設 カネ：がんに関する啓発チラシやノベルティ印刷代、交通費、ポスターなどの備品、LINE公式アカウント配信料、

SNS運営費、資料作成代、人件費など、イベント運営にかかわる必要経費

調達方法：協賛企業の確保（場所、モノの提供、活動資源）

《実現にいたる時間軸を含むプロセス》

市民と行政との対話（ex目安箱の設置）。定期的な情報交換（exワールドカフェなど） 行政に対してアイデアの提供（目標：月1回以上）

イベント開催による協賛企業の獲得（活動PRをすることで目に留まりやすくする） 学生向けの活動を増やし、次世代の意見を取り入れる。マスメディア活用（新聞・TV・ラジオ）

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

【Stage3】最終期 市民・行政それぞれが継続するための資金獲得と持続可能な活動の確立。（けん診20,000人）

内容：初期・中期内容の継続と学校をからめた持続可能な魅力ある活動の確立

SDGs：No.3 すべての人に健康と福祉を、No.17 パートナーシップで目標を達成しよう！《実現主体》bc-life 《必要資源》

ヒト：草津市民、学生、企業

モノ：教育システム、bc-lifeの備品、行政の施設、イベント運営に必要な備品、検診車、検診にかかわる費用

ネ：講師代、がんに関する啓発チラシやノベルティ印刷代、交通費、ポスターなどの備品、LINE 公式アカウント 通信料、SNS運営費、資料作成代、人件費など、イベント運営にかかわる必要経費

調達方法：bc-life：協賛企業の確保（場所、モノの提供、活動資源）。行政：予算の確保《**実現にいたる時間軸を含むプロセス**》

市民と行政との対話（ex教育機関も参加するなど）、定期的な情報交換（多世代交えたワークショップ） 行政に対してアイデアの提供（目標：月1回以上）

性教育と一緒にがん教育を、小・中・高・大で全学年で毎年1回開催。

社員研修で、がん教育とお金の教育（医療費などについて）が当たり前。ドネーション文化（寄付）の確立へ 初期～最終期までの期間を5年間と想定し活動していく。

【まとめ】

点と点がつながり、線になり、活動が継続していく。

個人で始まった活動が、団体としての活動になり、行政との連携にむずびつく。

その結果、持続可能な活動につながっていく。

大切なのは、連携して続けること！

